

## 特集：養鶏業界を取り巻く情勢

最近の養鶏業界に関して、最近の関心事を特集致しました。

### ①TPP（環太平洋経済連携協定）大筋合意

9月30日から米国アトランタ市において閣僚級交渉が行われ、当初の日程を延長して10月5日に大筋合意に達しました。当協会も、前回ハワイ会合同様に畜産ネットワークの一員として、会長・筆頭副会長・専務がアトランタに行き関係者との接触を行うとともに、交渉推移を見届けました。概要としては10月14日発信の日鶏協回覧板でお伝えしましたが、再度 TPP について考えてみます。

#### （1）TPP による今後の関税率変更について

卵白（凍結・粉）の即時撤廃、卵黄の6年目での撤廃、殻付卵・全卵の13年目での撤廃となっています。

下の表は10月8日農林水産省公表情報を数値化したもので公式なものではありません。関税撤廃までの移行期間の税率は法整備の過程で確定するもので、ここに掲載したものは概算数値です。

鶏卵のTPP対応税率(農林水産省食肉鶏卵課説明を基に試算)

税率	現行	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目
殻つき卵	17.0%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	11.6%	9.7%	7.8%	5.8%	3.9%	2.0%	0%
殻なし全卵(凍結・粉)	21.3%	10.7%	10.7%	10.7%	10.7%	10.7%	10.7%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	0%
凍結卵黄	20.0%	16.7%	13.3%	10.0%	6.7%	3.4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
卵黄粉	18.8%	15.2%	12.0%	8.9%	5.8%	2.7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
卵白(凍結・粉)	8.0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

#### （2）鶏卵輸入の現状

2012年～2014年の鶏卵輸入の殻付ベースは下記となっています。殻付卵は液卵原料に使用され、それ以外は加工用に使用されていますが、最近では粉卵の輸入がコンスタントになされていることです。特に卵白粉の輸入が殻付換算

では全体の 3/4 を占めていることです。卵白粉の用途としては、ハム・ソーゼージ類のつなぎや、練り物等に広範囲に使用されております。

鶏卵輸入実績（殻付ベース、トン）

種類	2012 年	2013 年	2014 年
殻付卵	347	1,595	1,625
全卵粉	15,453	14,767	13,941
凍結全卵	2,918	3,374	3,638
凍結卵黄	7,549	5,528	6,148
凍結卵白	0	0	0
卵黄粉	4,954	5,543	5,378
卵白粉	97,962	83,288	101,235
合計	129,184	114,095	131,965

TPP 参加国（シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランド、米国、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、ペルー、カナダ、メキシコ、）の内、なんとと言っても鶏卵大国は米国であります。我が国の鶏卵輸入における米国のシェアは以下となっています。

種類	2012年	2013年	2014年
殻付卵	94.9%	98.2%	98.5%
全卵粉	14.4%	14.0%	8.6%
凍結全卵	0.0%	0.0%	5.3%
凍結卵黄	87.0%	99.9%	98.2%
凍結卵白	0.0%	0.0%	0.0%
卵黄粉	31.8%	37.1%	39.3%
卵白粉	0.3%	0.4%	0.1%
合計	8.5%	10.1%	8.5%

殻付卵は米国産が殆どであることと、卵黄関係のアメリカ依存が高いのが最近の状況です。短期的には米国中西部での鳥インフルエンザ（AI）による供給減から、米国産鶏卵の輸入量は減少すると思われませんが、1年たって米国が AI から回復して鶏卵の供給過剰となった場合には、米国よりの輸出ドライブがかかる可能性があります。

### （3）TPP が養鶏業界に与える影響

TPP 交渉の結果が鶏卵分野に及ぼす影響については、十分な検討が必要であり、対策もそれを踏まえたものとするべきものであることから、日本養鶏協会と

しては、そのための専門委員会を立ち上げ議論に入ったところです。本来その専門委員会の結論を待つべきところではありますが、当面以下の対策が考えられます。

- 1) 鶏卵価格の低下圧力の増加に対応した、再生産を確保するセーフティネット（鶏卵生産者経営安定対策事業等）の強化。
- 2) 鶏卵価格の低下に対応できるよう生産、流通の各段階においてコストダウンを可能とする合理化・大型化（鶏卵生産、選別、割卵、排泄物処理等）への支援。
- 3) 消費者の国産鶏卵志向向上のため、鶏卵生産者が自ら行う啓蒙活動を促進するチェックオフなどの仕組みの構築の支援。
- 4) 消費者の国産鶏卵志向向上のため、安全・安心（鮮度保持等）の確保（品質管理等）への支援
- 5) 内外価格差が生じている要因（生産資材等）を分析し、講ずべき対策を検討していくことの支援。
- 6) 消費者の国産志向に corres するべく、鶏卵製品のみならず、中食・外食での使用食材の原産国表示の徹底を可能とする方策。

## ②鳥インフルエンザ（AI）について農水省から発表

秋も深まりつつあり、冬の準備をする季節になりました。昨年秋から今年の6月まで米国中西部で未曾有のAI爆発があったことは、記憶に新しいのですが、これを決して他山の石とせず、日本でも鶏舎の防疫体制は引き続き厳重に維持していきたいものです。9月9日に農水省はこれからのAIシーズンを控えて下記の発表を行いました。

### (1) [「平成 26 年度冬季に発生した高病原性鳥インフルエンザに係る疫学調査報告書」](#)

#### ◆ウイルスの我が国への侵入経路・侵入時期

平成 26 年度秋から冬季にかけて越冬のために南下する渡り鳥が感染し、日本に飛来することによりウイルスが持ち込まれた可能性が高いと考えられる。

#### ◆農場への侵入経路

野生動物や野鳥により、ウイルスが持ち込まれた可能性は否定できない。

#### ◆提言

- 1) 家さんの健康観察及び早期通報
- 2) 野鳥・野生動物によるウイルスの侵入防止対策
- 3) 防疫対策の再徹底
- 4) 情報収集

以下はこの報告書の中で、特に注意を払いたい部分です。

## 発生農場

いずれの発生農場も、ダム湖、ため池等、カモ類等の野鳥が飛来する環境が近隣に存在し、発生農場周辺における野鳥の調査においてもマガモをはじめとするカモ類が多く確認された。また、いくつかの発生農場においては鶏舎のすぐ横に川やため池が存在し、管理者らによってカモ類も目撃されていた。鶏舎周辺は雑木林等があり、森林性野鳥やネズミ等の小動物の生息にも適した環境であった。

## 提言 - 2)

農林水産省が平成 24 年度から平成 26 年度まで実施した、レギュラトリーサイエンス新技術開発事業「高病原性鳥インフルエンザの野生動物による感染の確認及び消毒方法の開発」において、農場内には多様な野生動物が侵入している一方で、多くの飼養者は野生動物の侵入を認識していないことが明らかにされている。農場内に入出入りする哺乳類や鳥類などの野生動物は、鳥インフルエンザを媒介する可能性がある

採卵鶏農場は自然環境が良い場所に位置しているケースが多いのですが、それは野鳥や小動物と隣り合わせであるということです。人や車、什器等での交差汚染に対する防御は各農場とも厳格に行われていますが、ネズミをはじめとする小動物対策の徹底が、AI 対策になると今回の報告書では強く訴えています。

(2) [「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」](#)は AI 対策の最新の指針となっています。これは従来からある指針の最新版ですが、マニュアル仕立てとなっています。農場の方々には是非目を通して頂きたいものであります。

(3) [「平成 27 年度における高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の強化について」](#)も発表されましたが、主要な主旨は以下となっています。

## 1. 発生予防対策

- (1) 家きんの飼養農場における飼養衛生管理の確認及び指導の徹底
- (2) 野鳥、ネズミ等の野生動物対策
- (3) AI に関する情報の共有
- (4) 野鳥のサーベイランス

## 2. まん延防止対策

- (1) 早期通報
- (2) 的確な初動体制の徹底及び連絡体制
- (3) AI の発生に対する必要な人員の確保
- (4) 防疫資材等の確保
- (5) 低病原性鳥インフルエンザの監視体制の強化

全体として過去の経験から、人・機械・車輛等の農場間移動による交差汚染に対する防御はかなり保たれているという流れになっており、これは今年米国中西部で発生した AI との大きな違いと言えます。この流れは維持しつつ、野鳥・小動物によるウィルス移動に的を絞って、農場防疫体制をより厳重に行うことが必要と思われます。中国・韓国・台湾ではアヒル農場が多数あることや、米国中西部では七面鳥農場が多数あることが、我が国の養鶏産業における AI の発生頻度と面での広がりの違いであるのではないかと考えられます。各生産農家におかれては、今シーズンも昨年以上に農場防疫体制を維持して、AI に備えて頂く様、お願い致します。

## 11月5日はいいたまごの日

オムライスリーフレットを全国の家庭に！！



全国で27万枚のオムライスリーフレットを配布しました。

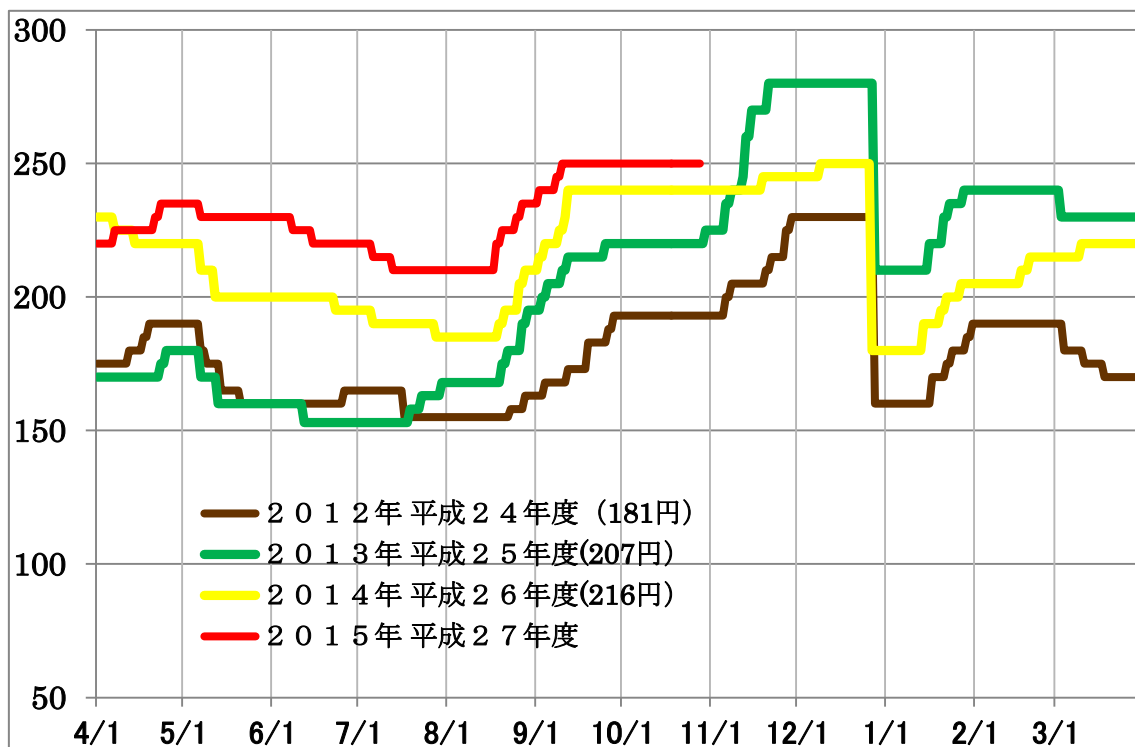
卵売場をオムライスで盛り上げましょう。

## 【相場動向】 過去 10 年間の 9 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	187	200	175
平成19年	166	170	165
平成20年	216	220	200
平成21年	188	190	180
平成22年	193	200	180
平成23年	183	185	180
平成24年	176	193	163
平成25年	211	220	195
平成26年	231	240	210
平成27年	247	250	235
平均値	200	207	188

平成 27 年 9 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 247 円となりました。これは昨年の 231 円よりは 16 円高くなり、先月の平均値 219 円よりも 28 円高くなりました。過去 2 年間では 8 月から 9 月にかけて 30 円以上もあげており、今年はそのペースがやや落ちた感じです。

## 【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】





## 【鶏卵関係主要計数】8月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	
平成26年							本年	前年
9月	8,831	105.5%	451	104.5%	826	107.2%	231	211
10月	8,497	109.9%	488	105.2%	819	96.4%	240	220
11月	8,136	98.7%	454	97.8%	843	101.2%	248	259
12月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192
1年間小計	103,126	102.7%	5,589	101.2%	9,923	101.0%	223	223

先月同様、8月までの一年間での配合飼料出荷量/一人当たり家計消費量が同じ様な比率で前年対比伸びており、前年対比生産量/消費量が減っていないことを示唆しています。雛餌付羽数は相変わらず前年同期対比増加となっており、来年春以降の生産量増加が予測されます。

## 【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

### ①各種事業についての報告

#### [\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

価格差補填事業の事業参加者との契約数量(月当たり/トン)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936

・9月の標準取引価格 219.89 円/Kg(補填なし)

#### [\(2\) 国産鶏卵に関する普及啓発事業](#)

・「[オムライス リーフレット](#)」を全国で27万部発送し、10月19日より売場への配布が始まりました。オムライスリーフレットが全国のご家庭に出回るにより「いいたまごの日」が盛り上がる様になります。

・10月14日に普及啓発委員会が開催され、11月5日開催予定の「いいたまごの日」イベントの最終確認がなされました。

・当日の予定

14:00~17:00 全国交流会（馬事畜産会館）。 「2個タマ運動」「オムレツの日」「親子丼の日」「エッグの日」「たまごかけご飯シンポジウム」関係者が集合し、情報交換を行い、今後の活動について検討を行います。

19:00~20:30 プレス発表会、お料理教室（東京ガス 銀座プラスG）

- ・いいたまごの日キャラクターの命名発表。
- ・マイナビウーマン読者を集め牧野直子先生による料理教室。

### (3) 畜産物輸出特別支援事業

11月の香港向け試行的輸出に備えて、輸出用ダンボール箱にロゴマークを刷り込むこととともに、インパックラベル（表面：ロゴマーク、裏面：日本のたまごのURL）をパック卵に挿入することとしました。



表面、ロゴマークとキャッチコピー

**CLICK <http://jlec.jp/egg>  
to find a Real TAMAGO  
(日本のたまご)**

裏面、URL(これはダミー)をクリックすると英文の「TAMAGO」サイトに飛ぶ仕掛け

### (4) 平成 27 年度全国優良畜産経営管理技術発表会の推薦事業

当協会の推薦農場である長野県松本市の会田共同養鶏組合を、10月13日に審査委員（大学の先生、中央畜産会役員）が訪問しました。 審査の結果、同組合は発表会参加の候補農場となりました。 発表会は11月12日に開催されま



(5) 平成 27 年度日本の食魅力再発見・国産畜産物フェア（消費拡大全国展開事業）

主に飼料米を飼養した畜産物を PR するために、11 月 14-15 日 東京日比谷公園（[食と農林漁業の祭典第 6 回ファーマーズ&キッズフェスタ 2015](#)）、11 月 21-22 日 香川県サンメッセ香川大展示場（[平成 27 年度さぬきうまいもん祭り「食の大博覧会」](#)）に当協会も参加して、ブース展示等を行います。お近くの方々は是非ご来場下さい。

## ②会議等

(1) 正副会長会議、理事会

9 月 30 日に本年度第 4 回目会議が開催されました。専門委員会の人選が承認されました。

(2) 組織改革委員会

10 月 22 日に第 1 回の会議を開催し、財政・組織の現況確認を行い、会費・手数料の見直しを含むいくつかのケースについて試算することとしました。

(3) 鶏卵生産者経営安定対策委員会

10 月 23 日に第 1 回の会議を開催し、経営安定対策事業に係る論点整理を行いました。キャッシュフローの確保、基準価格のあり方、補てん事業と淘汰鶏事業のバランス等が課題とされました。

### ・[鶏卵規格取引研修会](#)

以下の予定で鶏卵規格重量責任者に対する研修会が開催されます。GP センターや鶏卵取引に関係する方々の、積極的なご参加をお願い致します。

10 月 30 日（金） 京都府農協会館、 11 月 13 日（金） 馬事畜産会館  
（関連ホームページ）

<http://www.jpa.or.jp/news/item/2015/0731/index.html>

## ③ 今後の予定

10 月 30 日（金） 鶏卵規格取引研修会（京都/京都府農協会館）

11 月 5 日（水） いたたまごの日（交流会、記念イベント）

6 日（木） 鳥インフルエンザ委員会、組織改革委員会

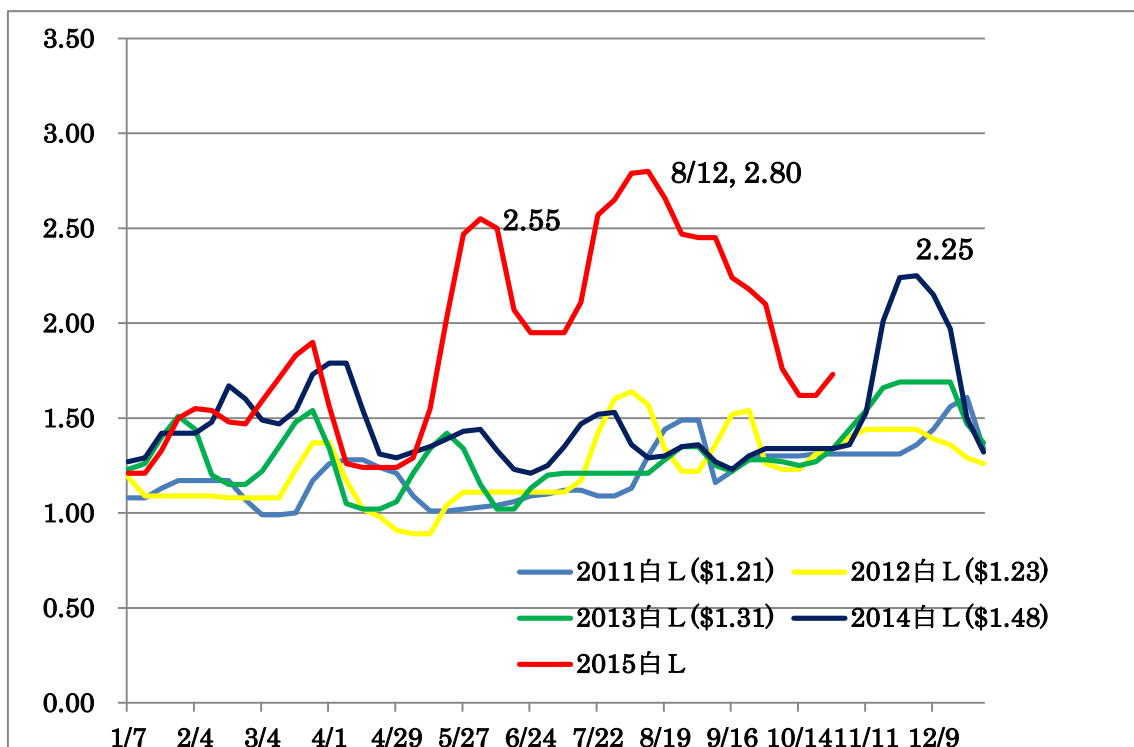
12 日（木） 正副会長会議、理事会、平成 27 年度全国優良畜産経営管理技術発表会

- 13 日 (金) 鶏卵規格取引研修会 (東京/馬事畜産会館)
- 14 日 (土) -15 日 (日) ファーマーズ&キッズフェスタ 2015 (東京/日比谷公園)
- 21 日 (土) -22 日 (日) 香川県/サンメッセ香川)
- 24 日 (火) 鶏卵生産者経営安定対策委員会
- 26 日 (木) 第 3 回審議委員会
- 12 月 14 日 (月) 国産鶏卵に関する普及啓発事業委員会

## 【海外ニュース】

### 米国 鶏卵相場チャート 2011-2015 年

週ごと 北東部 白Lサイズ ドル/ダース



中西部での AI により未曾有の高値をつけた鶏卵相場も落ち着きははじめました。10 月には 1.62 ドル/ダースまで下がりましたが、最新では 1.73 ドル/ダースとなっており、収穫感謝祭週にかけての上昇が見られそうです。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号馬事畜産会館内 (5 階)

TEL : (03) 3297-5515 FAX : (03) 3297-5519 発行日 2015 年 10 月 29 日

編集・発行責任者：島田博 ([fuwatama@jpa.or.jp](mailto:fuwatama@jpa.or.jp))